鉛弾の使用、流通や所持の禁止を求める意見書

絶滅危惧種（レッドデータブック）、国内希少野生動植物種（「種の保存法」）、国の天然記念物でもあるオオワシやオジロワシなどの猛禽類が、鉛中毒によって大量に死んでいる現実については、知床博物館を始め多くの関係機関でも発表され、対策を求めています。

北海道では2000年の狩猟期からエゾシカ猟における鉛ライフル弾の使用が禁止され、2004年からはヒグマを含む全ての大型獣の狩猟で鉛弾が使用禁止に、さらに2014年10月1日から、エゾシカ猟の際に鉛弾を「所持」することが条例で禁止され、使用の現行犯でなくても取り締まることができるよう規制を強化しました。しかし鉛弾の使用に制限がない本州以南のハンターが鉛弾を持ち込み、使用している可能性も指摘されています。また、長距離を移動し、渡りも行う猛禽類の鉛中毒は、本州でも確認されるようになっていきます。鉛弾の誤食による野生動物の鉛中毒を根絶するためには、全国規模で狩猟に使われる鉛弾を規制することが必要です。

2019年10月には、環境大臣が2年後の改正を目指すと発表されましたが、今年度発表の環境省指針改正において、規制は見送られました。しかし、今後は環境省としても実態調査や全国的なモニタリング体制の構築などの項目を「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針」の項目に新たに組み入れられたことは、鉛中毒防止に向けて動き出していると捉えています。さらに、今年9月10日には環境大臣が、2030年度までに鳥類の鉛中毒被害をなくすことを目標に、2025年から段階的に全国で鉛弾を規制する、という方針が発表されました。

知床世界自然遺産地域であり、多くの貴重な猛禽類がこの地で生息する斜里町から、鉛弾の使用の禁止について大きく前進したことを評価するとともに、今後、全国での規制が実効性、有効性のある形で計画通りに実施されることを強く求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により提出する。

《提出先》

環境大臣